

## ツンデレ!?!な、専門科

琉球大学大学院 眼科学  
新垣 淑 邦 (13期生)

同窓会の皆様、こんにちは。視覚機能制御学(眼科学)講座のご紹介をさせていただきます。教室のご紹介がH11年に仲村佳巳先生(H5年卒)がされて以来のようですので、実に12年ぶりとなります。この間に大きく変わった点を一つだけあげるとすれば、専門外来の充実があげられると思います。

福田雅俊名誉教授、長瀧重智教授を経て、H10年に澤口昭一が教授に就任され、13年目を迎えます。就任当初から確立された専門外来は、現在では網膜・硝子体、緑内障、神経・腫瘍、斜視・弱視、角膜・ぶどう膜の専門グループに分かれて、診療を行っております。入局後5年目からは眼科専門医を取得した後、多くの先生方は自分の専門を決定しております。緑内障グループは、澤口教授、酒井講師(H5年卒)を中心に沖縄に多い閉塞隅角緑内障、また糖尿病などからの続発緑内障の患者様の診療にあたっております。またH17年には久米島で主に緑内障患者の疫学調査として、久米島スタディが行われましたが、多くの知見が国内・国外の学会で報告されました。網膜・硝子体グループは、中村講師、目取真助教(H11年卒)を中心として、外傷をはじめ、網膜剥離、難治性の増殖糖尿病網膜症など開業医の先生方や一般病院では緊急性の高い、または重傷の患者様を数多く紹介いただいております。毎週のように緊急手術を行うほど、活動的に頑張っております。神経・腫瘍の専門外来では、谷地森助教(H11年卒)が大学病院ならではの全身疾患に併発する眼疾患、腫瘍、視神経病変の患者様の診療を行ってござ

す。斜視・弱視専門外来は、高江洲医師(H8年卒)が、県内から集まる多くの小児の治療に従事しております。また県内でも行う施設がほとんど無い斜視手術を毎週の様に行っております。角膜・ぶどう膜専門外来は、照屋医師(H11年卒)が、診断・治療の難しい角膜、ぶどう膜炎の患者様の診療を行っております。県内では唯一となる角膜移植を関連病院のハートライフ病院で行っております。

このように各グループで琉球大学出身の医師が中核を担って活躍しており、実際に眼科学教室を支え、盛り上げているのではないかと考えております。

年々増加する外来患者数、手術件数ですので、毎日が慌ただしく、なかなか実習の学生の皆さんと親しくなる機会がほとんどないと私たち自身感じております。ただスタッフ一人一人は温厚、気さくでいろいろと話しやすいなど、勤務中には見られない意外な一面を持っております。あまり多くないスタッフ数だからこそみんなで協力し合う、また風通しのよい雰囲気は眼科学教室の特徴です。

今後とも、視覚機能制御学(眼科)講座をよろしく願いいたします。

